

県教育委員会が紹介したい市町村の取組一覧

タイトル	取組のポイント	ページ
学力向上への取組を具体化させる指導	①探究型学習の授業実践に活かせる具体的な授業改善資料の提示 ②教科で付ける力や活用力を確実に育むアクションプランの作成と活用 ③保護者に対する全国学力・学習状況調査の具体的な分析と対策の発信	1
「学ぶ側の思考」に立った授業改善の推進	①学びのサイクルを意識した「教える側の思考」から「学ぶ側の思考」に立った授業づくりを行うこと ②学力向上を下支えする条件整備の充実を図ること	2
教員の資質・能力を向上させ、つまずきを生まない指導へ	①学力向上には、学習、生活両面における教員の資質・能力の向上が基本 ②学年が進むとつまずきが重なることも多く、個に応じた対応重視に転換 ③学習意欲を高め、習得を図るため、家庭と協力し合うことを一つ一つ具体化	3
学力向上 3 本柱による教育委員会の施策	①学力向上を「教育環境の整備」「教員の指導力向上」「学習習慣の形成」の 3 本柱で捉え、学校を力強く支援する ②つけたい力を明確にした評価問題や単元計画の作成により、授業改善につなげる ③先進校視察や示範授業、複数校の教員による研究授業を実施し、授業改善への意識改革を行う ④家庭や地域と連携し、共に子育てに参画する意識を醸成する	4
小中連携と主体的同僚性の構築による学力向上	①9年間の系統性が見えるカリキュラム作成と授業実践を小中学校の教員が合同で行っている ②コミュニティ・スクールの強みを生かし、総合的な学習の時間の学びが探究的になるようなカリキュラム・マネジメントを行っている ③OJTの活性化によって学び続ける教職員集団を育成し、授業改善につなげている	5
「幼保小中一貫教育」の推進による確かな学力の育成	①中学校区における学力向上戦略 ②教職員間の共通理解 ③教育委員会としての取組	6
目指す子どもの姿を学校・家庭・地域で共有する取組	①幼保小中高校が連携を深めながら取り組む「スタンダード」の作成 ②「スタンダード」を、園及び学校・家庭・地域で共有するための取組	7
地域・家庭・行政との連携による探究型学習の推進	①探究型学習の視点に沿った授業改善が学力向上につながるとの認識のもと、隣県との相互交流などを取り入れながら、教員の意識改革と授業改善を推進すること ②地域とともにある学校づくりを推進し、学校の安定感を生かした学力向上をめざすこと	8
子どもの実態からスタートするカリキュラム・マネジメントの実践	①学校経営のビジョンの構想 ◆学校教育目標の整理 ◆今年度の重点の焦点化 ②今年度の重点を達成するための組織マネジメントシステムの構築 ◆学級経営案の改善 ◆学校評価と業績評価の統合によるPDCAサイクルの構築 ③職員一人ひとりのカリキュラム・マネジメント力の向上 ◆講師招聘による研修会 ◆日常実践をめざす職員集団の構築 ④家庭・地域の教育力を活用したカリキュラムの充実 ◆学校と家庭の学習の連続性 ◆地域の教育力の活用	9

学力向上への取組を具体化させる指導

事例Ⅰ 市町村の優良な取組

1 実施の経緯

各学校における探究型学習の推進に向け、具体的な授業イメージがもてるような資料の配布を継続し、アクションプランも授業場面に即して作成している。また、各教員が資料を積極的に活用できるように内容や配布の仕方を改善し、実効性を高めている。保護者への情報も具体的に発信し、学力向上への協力を得られるようにしている。

2 取組のポイント

- ①探究型学習の授業実践に活かせる具体的な授業改善資料の提示
- ②教科で付ける力や活用力を確実に育むアクションプランの作成と活用
- ③保護者に対する全国学力・学習状況調査の具体的な分析と対策の発信

3 具体的な取組

- (1) 探究型学習の授業実践に活かせる具体的な授業改善資料の提示
 - ①市教育研究所だより「算数の授業で使えるヒント集」をホームページに掲載し、その中で、つまづきが続く領域を取り上げ、授業づくりの課題と具体的な改善策を示している。特に、学習内容の6年間の系統性の提示と単元を通じた板書や児童のノート等、具体的な授業イメージをもてるようにシリーズで提示している。
 - ②上記の資料をデータでも各学校に送付し、積極的に活用できるようにしている。
 - ③市教育委員会作成の「指導の指針」を教員が書き込んで活用できる形式にしている。その中で、市として「主体的・協働的・創造的に学ぶ授業づくり」を推進し、共通実践事項として「課題解決力を育てる授業」の流れを示し授業改善につなげている。
- (2) 教科で付ける力や活用力を確実に育むアクションプランの作成と活用
 - ①アクションプランでは、具体的なつまづきに関連する授業場面を取り上げ、指導上の留意点を示して、確実な授業改善につなげる指導・助言を実施している。
 - ②県作成資料の活用を指導することで、各校では、授業の終末における積極的な活用につなげている。
- (3) 保護者に対する全国学力・学習状況調査の具体的な分析と対策の発信
 - ①市の学力の状況、家庭生活に関わること、児童生徒自身に関わることについて具体的に示している。
 - ②児童生徒の家庭生活の状況だけでなく、つまづきのある問題を具体的に示すことで、学力向上に対する保護者の協力を得やすいようにしている。

「学ぶ側の思考」に立った授業改善の推進

事例Ⅰ 市町村の優良な取組

1 実施の経緯

全国学力・学習状況調査の結果から、一連のサイクルの繰り返しの中で、授業改善の取組がきちんと行われているか検証と見取りを行っていくことを課題としている。単元計画や指導計画の見直しについては、家庭学習と授業のつながりを意識した学びのサイクルで捉えて授業改善を進めている。

2 取組のポイント

- ①学びのサイクルを意識した「教える側の思考」から「学ぶ側の思考」に立った授業づくりを行うこと
- ②学力向上を下支えする条件整備の充実を図ること

3 具体的な取組

(1) 要請訪問授業研での助言

本地区の実態から見えてきた授業改善の必須条件として、以下の5項目を具体的に提示することで、「学ぶ側の思考」に立った課題づくりが教員に意識されてきている。

- ・課題は、教科の本質に触れていて、思考を必要としているか。
- ・課題解決に向かうための考えどころが焦点化されているか。
- ・習得したことを活用して予想が立つか・解決の見通しが立つか。
- ・交流を通して自分の考えを確かにしたり、広げたり深めたりしているか。
- ・協働的な学びから個の学びに返し、学びの達成感と有用感を味わわせているか。

(2) 学力向上を下支えする条件整備の充実

①学力向上支援員の配置

各校に学力向上支援員1名を配置しており、授業づくりや教材研究で有効に活用されている。また、学力向上支援員が学級担任や教科担任へ助言することで、学級経営や子どもの見取り方・支援、教材研究などでのOJTの効果にもつながっている。

②授業とリンクする家庭学習の推奨

現状では、家庭学習は、ドリル的内容や授業内容の復習と定着を目的としたものが多い。子どもが主体的に取り組む授業づくりを目指して、調べ学習や自力解決を意図的に家庭学習のメニューとして扱い、それを以後の授業に活かしていくなど、授業とリンクした家庭学習を推奨している。また、授業づくりにおいては、家庭学習のメニューも含めた単元計画作成を勧めている。

(3) 学力向上のための研修会の充実

学力向上研修会を開催し、全国学力・学習状況調査の分析と考察を提示するとともに、参会者による今後の努力点を協議した。その中で、県作成資料等の活用を推奨し、つまずきへの確実なフォローアップを講じるように指導・助言を行っている。併せて、課題を共有した上でアクションプランをもとに自校の取組をプレゼンするなど、参考となる取組を各校に広げている。

教員の資質・能力を向上させ、つまずきを生まない指導へ

事例Ⅰ 市町村の優良な取組

1 実施の経緯

少子化で学校・家庭双方で子どもの様子に変化し、充実した授業には「かかわり」が大事になっている。教員の世代交代も急速に進み、複式学級から多人数学級までの学校がある中では、教員の資質・能力の向上を土台に、一人一人の子どもを丁寧に見取り、家庭と協力してこそ、学力向上が図られると考えている。

2 取組のポイント

- ①学力向上には、学習、生活両面における教員の資質・能力の向上が基本
- ②学年が進むとつまずきが重なることも多く、個に応じた対応重視に転換
- ③学習意欲を高め、習得を図るため、家庭と協力し合うことを一つ一つ具体化

3 具体的な取組

(1) 専門家招聘を継続して、教員の資質・能力を向上

学習面、生活面、特別支援教育、それぞれの分野における大学教授や研究機関の専門家を継続して招聘し、各学校の研修会に派遣した。

- ・学習面：全体研修1回、「対話と協同」の授業で各小学校2回、中学校6回
 - ・生活面：全体研修1回、Q Uアンケート活用の学級づくり研修に各校2回
 - ・特別支援教育：教育支援委員会3回、ユニバーサルデザインの授業等で各校2回
- 今年度はさらに、構成的グループエンカウンターによる「出会い」の研修を深めるため、大学教授を各校に2回派遣した。

小学校、中学校の教育マイスターも各校の授業研究会に参加し、交流・助言した。

(2) つまずきへの対応と、各種検定への挑戦を重視

学力向上に関する校内研修の一層の充実に向け、1学期半ばから標準学力検査の結果を受けた分析を進め、各教科、学年で特に強化する学習内容や補充学習の計画を立てて実践した。また、小学校5・6年生の算数検定、中学校の数学・英語検定の受検料を補助して挑戦の機会を全員に提供した。

来年度、つまずきを次の学年に持ち越さないことを実現するために、「学びのカルテ」を導入して、一人ひとりに向き合った支援を中学校から試行予定である。

この実践にはかなりの取組が必要になることが予想され、教育委員会としてこれを支えるため、主催・関与する会議を大幅に縮減し、必置の会議等への整理統合を進めている。また、全国学力・学習状況調査のS-P表を活用した一人ひとりのつまずきの把握と各学年の指導上の課題の分析も重視している。

(3) 親子一緒の取組で、家庭での学習環境向上へ

親子学習支援事業「イザベラ塾」を立ち上げ、民間教育団体と協力して家庭学習の具体的なあり方について保護者向けの講演を行った。また、その実践場面として小学校は夏季休業、中学校は年末休業の3日間、中央公民館で児童生徒の学習会を実施した。同じ内容を一斉に取り組む家庭学習から、個々のつまずきを自覚し、自ら選択して主体的につまずきを克服する家庭学習への質的転換を図る意識の高揚をめざしている。

携帯情報機器の利用の約束をPTA連絡協議会と協力して統一するとともに、今後、放課後活用の事業を見直して帰宅時間を繰り上げ、家庭学習の充実をより一層図っていく。

学力向上3本柱による教育委員会の施策

事例Ⅰ 市町村の優良な取組

1 実施の経緯

学校においては、授業改善を進めるうえで、単元全体での学びを意識した学校研究がこれまで少ない状況にあった。また、中学校では教科の専門性を発揮するために協議し合う機会が限られていたため、授業改善が進みにくい現状にあった。教育環境の充実、教員の指導力向上、及び学習習慣の形成の3本の柱を中心に学力向上に努めている。

2 取組のポイント

- ①学力向上を「教育環境の整備」「教員の指導力向上」「学習習慣の形成」の3本柱で捉え、学校を力強く支援する
- ②つけたい力を明確にした評価問題や単元計画の作成により、授業改善につなげる
- ③先進校視察や示範授業、複数校の教員による研究授業を実施し、授業改善への意識改革を行う
- ④家庭や地域と連携し、共に子育てに参画する意識を醸成する

3 具体的な取組

(1) 教育環境の充実

【QUの導入による学力向上の基盤となる学級づくり】

- ・平成27年度より学級の状態（人間関係、ルール）を調査できるQUアンケートを実施するとともに、外部講師による研修会を実施しながら、学力向上の基盤となる学級経営に活用している。3年間の取り組みにより、学級満足群出現率が上昇するなどの成果をあげている。

(2) 教員の指導力向上

【単元研究委嘱】

- ・小学校においては、教育委員会として毎年度3校に単元研究を依頼している。外部講師の指導をいただきながら、つけたい力を明確にした評価問題や単元計画作成のプロセスにより、教員の指導力向上につながっている。

【先進校視察や示範授業、複数校の教員による研究授業の実施】

- ・中学校においては、特に数学、英語の授業研究を活性化させるため、複数校の組合せで研究授業を行い、教員の指導力向上につなげている。また、各校の教科リーダーによる先進校視察や示範授業、英語科教員の夏季研修会の実施など、外の風を入れることで、教員の授業改善に対する意識改革を図っている。

(3) 学習習慣の形成

【家庭や地域の子育て共同参画】

- ・子どもの学習習慣形成に向けて、社会教育通信において家庭教育、読育推進のためのコーナーを設け、家庭や地域への連携を働きかけている。また、読書手帳を配布し家読（うちどく：家庭での読書のこと）の一層の推進を図っている。

小中連携と主体的同僚性の構築による学力向上

事例Ⅰ 市町村の優良な取組

事例Ⅱ 学校の優良な取組

1 実施の経緯

平成19年度から小中連携を重視した取組を継続し、中学校卒業までに育む子どもの姿を明確にして、各学校段階での教育を充実させている。小中合同の授業研究会やカリキュラム作成を継続することで、小中の壁を越えた同僚性が生まれ、9年間を見通した授業づくりや日常的な授業改善につながっている。

2 取組のポイント

- ① 9年間の系統性が見えるカリキュラム作成と授業実践を小中学校の教員が合同で行っている。
- ② コミュニティ・スクールの強みを活かし、総合的な学習の時間の学びが探究的になるようなカリキュラム・マネジメントを行っている。
- ③ OJTの活性化によって学び続ける教職員集団を育成し、授業改善につなげている。

3 具体的な取組

(1) 「義務教育9年間の出入り口」を考えた小中一貫教育

① 9年間の系統性が見通せるカリキュラム作成と授業実践

- ・ 道徳、算数・数学、外国語活動・英語、総合的な学習の時間のカリキュラムを小中学校の教員が合同で作成し、教科の本質を大事にした授業改善を実施している。

② 小中合同授業研究会（年2回）の実施

- ・ 事前研究会も小中合同にし、系統性を軸に教材研究を深め合っている。

③ 必要に応じた小中乗り入れ授業の実施

- ・ 体育、算数、外国語活動で実施し、児童生徒の学びの連続性を大事にしている。

(2) コミュニティ・スクールの強みを活かした郷土愛の醸成と探究的学びの実施

① 小中学校で「地域に学び、地域で学ぶ」授業実践

- ・ 人的、物的学校資源を意図的に活用するカリキュラムを作成し、地域への愛着や誇り、人生の先輩への憧れを抱かせ、学ぶ意欲の向上につなげている。

② 資質・能力の育成を意図した総合的な学習の時間の授業の実施

- ・ 目的意識を明確にし、探究力・表現力の向上を目指して総合的な学習の時間の授業を実践している。

(3) OJTの活性化による学び続ける教職員集団の育成

① メンター・メンティー制の導入による教職員の資質向上

- ・ 組織的に業務推進力を高め合う場を設定し、主体的な同僚性を育てている。

② 教育マイスターの活躍しやすい学校体制づくり

- ・ 教育マイスターの役割を保護者・地域にも説明している。また、各教員の授業を価値づけられるシステムが構築されていて、日常的な授業改善が進んでいる。
- ・ 積極的なマイスター便りの発行で情報が共有されている。さらに、授業での生き生きとした児童生徒や教職員の姿が、学校便りで地域にも発信されている。

「幼保小中一貫教育」の推進による確かな学力の育成

事例Ⅰ 市町村の優良な取組

事例Ⅱ 学校の優良な取組

1 実施の経緯

児童生徒の「確かな学力の育成」と地方創生に向けた「愛郷心・地域力の醸成」をねらいとして、中学校区における一貫した教育目標を基に、幼児期から義務教育修了までを見据えた「幼保小中一貫教育」を教育の柱として位置づけ、10年を超える取組を継続している。

2 取組のポイント

- ①中学校区における学力向上戦略
- ②教職員間の共通理解
- ③教育委員会としての取組

3 具体的な取組

- ① 児童生徒に力を付ける幼保小中一貫教育の本質は、日々の授業の充実である。児童生徒の「学び・育ちの連続性」を的確に捉え、系統的な指導を意識した授業改善を推進し、確かな学力を育成するとともに、教職員の指導力向上を図っている。
 - ・「小中相互乗り入れ授業」「小小交流」等、それぞれの中学校区の強み、創意工夫を生かした実践
 - ・学力向上「アクションプラン」の中学校区内での共有・実践
 - ・「宿題」から「自学」へステップアップさせるための、発達段階に応じた家庭学習指導の推進
- ② 大量退職者が見込まれたり、他市町から異動する教員が増加したりする現状から、年度当初の早い段階で、各中学校区の幼保小中一貫教育について共通理解を図っている。
 - ・校長のリーダーシップのもと、中学校区における教育目標や目指す子どもの姿等を明記した全体計画・年間計画の作成
 - ・各中学校区における取組の連続性やその成果を俯瞰できる「共有シート」の作成
- ③ 各中学校区での幼保小中一貫教育の充実のためには、教育委員会のバックアップは不可欠である。小中統一した基準による教育課程編成や、各事業についての適切な評価を重ねるとともに、継続的な人的配置・活用を推進している。
 - ・学習支援員の増員
 - ・国際的視野に富んだ人材の育成と新学習指導要領の実施に向けた英語教育アドバイザーの配置、ALTの増員
 - ・指導力に優れた教員を教育指導員として委嘱（公開研や校内授業研での指導）

これらの取組の結果、各幼児施設・学校における「学び」と「育ち」の連続性・系統性を意識した教育課程の編成や学校運営が展開され、子どもたちの「生きぬく力」の高まりが見られるようになった。

目指す子どもの姿を学校・家庭・地域で共有する取組

事例Ⅰ 市町村の優良な取組

事例Ⅲ 地域・家庭と連携した取組

1 実施の経緯

複数あった町内の中学校が統合することをきっかけに、それまで各学校が独自に掲げていた教育方針を統一する計画を進めてきた。

小中学校だけでなく、保育園、認定こども園、高等学校との連携を深めながら、「同じ目標に向かって子どもを育てる」という視点で、町の教育研究所が中心となり「スタンダード」を作成し、取組を進めている。

2 取組のポイント

- ① 幼保小中高校が連携を深めながら取り組む「スタンダード」の作成
- ② 「スタンダード」を、園及び学校・家庭・地域で共有するための取組

3 具体的な取組

- ① 町内全ての園及び学校が目指す子どもの姿を共有し、一貫した指導ができることを目指し、町教育研究所が中心となって、平成25年度から研究・構想を始め、昨年度、以下の4つの「スタンダード」を完成させた。
 - ・学校において授業を受けるときの心構えを記載した『学習のスタンダード』
 - ・「基本的な生活習慣」「生活リズム」「メディアとの関わり」「他との関わり」の4つの視点からの目標を記載した『生活のスタンダード』
 - ・発達段階ごとの望ましい家庭学習の目安を記載した『家庭学習のスタンダード』
 - ・町子どもたちが、高校卒業までに成長してほしい姿を記載した『スタンダードの最終目標』
- ② 各園及び学校における「スタンダード」の確実な実践に加え、その実効性をさらに高めるためには、家庭や地域との連携・協働は不可欠である。そこで、学校での取組を充実させるとともに、取組の趣旨を町全体で共有するための手立てを、以下のように講じてきた。
 - ・「スタンダード」の印刷（各教室での掲示）及び配布
 - ・PTA総会等での保護者への説明、保護者向けリーフレットの作成
 - ・保護者・教師・児童生徒対象のアンケートを実施…「スタンダード」活用による成果と課題を把握
 - ・基本的な考え方や各学校での取組の様子について、町の広報誌に2号にわたり特集として掲載
 - ・町のホームページへの掲載
 - ・公民館ロビーでの掲示

地域・家庭・行政との連携による探究型学習の推進

事例Ⅰ 市町村の優良な取組

事例Ⅲ 地域・家庭と連携した取組

1 実施の経緯

探究型学習を生かした授業改善が進んでいる一方、全国学力・学習状況調査の結果から家庭学習の時間が少ない現状が浮き彫りになっている。コミュニティ・スクールの導入とともに、学校・地域・家庭が一体となった「地域とともにある学校づくり」を推進し、学校だけでは解決が難しい課題を地域全体で考え、学校の安定感を生かした学力の底上げを目指している。

2 取組のポイント

- ① 探究型学習の視点に沿った授業改善が学力向上につながるとの認識のもと、隣県との相互交流などを取り入れながら、教員の意識改革と授業改善を推進すること
- ② 地域とともにある学校づくりを推進し、学校の安定感を生かした学力向上をめざすこと

3 具体的な取組

(1) 授業改善に向けた取り組み

- ① 教育委員会委嘱公開研究会では、探究型学習に関わる視点に重点を置いた研究授業を行い、研修を深めた。また、隣県A市とは互いの公開研究会で相互交流し、良さを学び合っている。特に授業づくりでは、学び合いの視点、振り返りの視点など授業の質の向上に役立っている。
- ② 町学力向上調査研究委員会では、他地区の中学校の学力向上に関わった元学年主任による講話を行うことで、教職員への取組に対する意欲づけとなった。中学校の授業が一斉授業の講義型からアウトプットや話し合いを大切にした主体的・協働的な授業へと変わってきている。さらに隣県の取組を参考にしながら家庭学習につなぐ振り返りの充実に取り組み、家庭学習の質を高める工夫をしている。
- ③ 校長会主催の五者合同研修会【各校の校長、教頭、教務主任、研究主任（学習指導主任）、生徒指導主任】では、「学力向上を図る取組」を小中連携して取り組んでいる。また、中学校主催の数学フェスタでは、学校での学びを地域へ公開する場を設けることで、児童生徒の学ぶ意欲の向上にもつながっている。

(2) 学校、家庭、地域が一体となって進める教育の推進

- ① 「早起き・朝ごはん・躍動・早寝」運動をキャッチフレーズに、家庭、地域と一体となった取組（PTAによる研修会、町広報等による啓発活動）を進めることにより、生活リズムの状況が経年変化で良くなってきている。また、「躍動する〇〇っ子10か条」を制定し、学校・地域・家庭が連携して家庭生活の向上を図ることで、学校生活が充実し、学ぶ意欲が向上している。
- ② コミュニティ・スクールの導入に向けた取組を通して、学校課題を地域全体で共有し、地域とともにある学校づくりを推進している。

子どもの実態からスタートするカリキュラム・マネジメントの実践

事例Ⅱ 学校の優良な取組

事例Ⅲ 地域・家庭と連携した取組

1 実施の経緯

本校には、全国学力・学習状況調査等にみられる学力に関するアセスメントのあり方を改善しなければならないという課題があった。これは、その学年の学力向上をめざす担任の努力や工夫にとどまらず、学習内容の系統的な積み重ねや教育課程全体を見通した対策が必要であった。併せて、教職員が一丸となって学力向上を成し遂げようとする意欲と実践力が不可欠であった。そのための時間の確保や資質・能力を高めるための研修の機会を生み出す必要があり、そこで、カリキュラム・マネジメントの視点から、課題解決を試みた。

2 取組のポイント

- ①学校経営のビジョンの構想
 - ◆学校教育目標の整理
 - ◆今年度の重点の焦点化
- ②今年度の重点を達成するための組織マネジメントシステムの構築
 - ◆学級経営案の改善
 - ◆学校評価と業績評価の統合によるPDCAサイクルの構築
- ③職員一人ひとりのカリキュラム・マネジメント力の向上
 - ◆講師招聘による研修会
 - ◆日常実践をめざす職員集団の構築
- ④家庭・地域の教育力を活用したカリキュラムの充実
 - ◆学校と家庭の学習の連続性
 - ◆地域の教育力の活用

3 具体的な取組

- (1) 学校経営のビジョンの構想
 - ① 子どもの実態を踏まえながら、これまで学校経営で提示されてきた校訓、スローガン、各分掌目標等の価値について、全職員で協議し整理した。
 - ② 全職員で実現できるよう、子どもの実態を受けた「到達目標＝今年度の重点」を3点に絞って設定した。
- (2) 今年度の重点を達成するための組織マネジメントシステムの構築
 - ① 学級経営案を教師の教育活動計画と位置付けた。今年度の重点3つを実現するために、より具体化した学級経営目標の設定、目標到達のための手立てを「算数科」「道徳」「特別活動」に焦点化した内容に改善した。
 - ② 学校評価に3つの重点についての記載欄を設けた。また、教育活動計画書に校務分掌の欄を設け、教職員人事評価の業績目標と項目の同一化を図った。その上で、教職員人事評価を活用し、学級経営目標と到達目標及び教職員人事評価の業績目標の一体化を図るPDCAサイクルを構築した。
- (3) 職員一人ひとりのカリキュラム・マネジメント力の向上
 - ① カリキュラム・マネジメントの意義、方法を学ぶ機会を現職研修として、講師招聘研修も含め5回実施した。また、今年度の重点の達成に向け、校内研究を核として、日常的に授業づくりについて学び合う職員集団づくりを行った。
 - ② 管理職が子どもの学びの状況を様々な角度から把握して指導・助言にあたった。また、教職員が授業について自由に意見を交わし合える信頼関係の厚い職員室経営を行った。
- (4) 家庭・地域の教育力を活用したカリキュラムの充実
 - ① 家庭と地域と学校が目標を共有すること、また、帰りの会終了後に、「チャレンジタイム」を設定し、家庭学習につながりをもたせることで学校での学習を家庭につなげ、家庭での学習の定着を図った。
 - ② 「学校家庭地域連携協働推進事業」を核として、地域の教育力をカリキュラムに取り入れ、幅広い学びを実現し、子どもに郷土愛を育むとともに、教員も共に研修することで（負担軽減も含めて）、カリキュラムの充実を図った。

平成29年度 全国学力・学習状況調査において
良好な結果にある市町村の取組一覧

山形県教育庁義務教育課

市町村名 (建制順)	良好な結果 が出た教科	取組の事例
山形市	中・国A B	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭での意欲的な予習・復習や自主学習につなげる振り返り ○「指導の指針」に基づく指導 <ul style="list-style-type: none"> ・「学ぶ意欲が高まる導入」「学びの広がりや高まりのある展開」「学びの高まりを実感する終末」の流れを意識した授業づくり ・学習内容や自己の変容に目を向けた振り返りの重視 ・単元を通して子どもに付けたい力を明確にした単元計画の作成
山辺町	中・国A B	<ul style="list-style-type: none"> ○町教委主催の学力向上委員会によるつまずきの分析と、基礎基本の徹底のための手立ての構築 ○各校の朝学習やミニテスト等、短時間で効果のある事例の共有 ○課題の徹底的な吟味と、まとめ・振り返りの際に表現させる内容までを見通した単元構成力の育成 ○本時の内容に密着した課題（復習）や、次時の学習につながる課題（予習）の提示 ○校内における、自主学習の定義や取り組み方の統一
中山町	小・国A	<ul style="list-style-type: none"> ○活用させたい既習事項、教科の用語等の明確化 ○子どもにさせたい振り返りの内容を具体的に構想 ○学ぶことの有用性や問題解決の楽しさを実感させる授業づくり ○見本となる家庭学習ノートの紹介や上位層に対する手応えのある問題の提示等による、家庭学習の習慣化とその質的向上 ○同僚性を発揮し、教師の授業力を高めるためのカリキュラム・マネジメントの充実
西川町	中・国A 中・数A	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力調査やNRT等の小中連携による分析 ○全国学力調査やつまずき発見問題集を活用した「基礎・基本の定着に向けた全校テスト」の定期的な実施 ○「家庭学習のすすめ」の活用を通じた、学校と家庭が一体となって取り組む家庭学習の充実 ○学びの連続性（授業→家庭学習→次時の授業）を意識し、学習内容や学び方の確認、新たな課題の発見を視点とした振り返りの実施 ○生徒の新たな良さや課題を見つけ、学級経営に活かすため、担任が自分の学級の授業の参観（毎日5分以上・中学校）
大江町	小・国A 小・算B	<ul style="list-style-type: none"> ○日々の教材研究の徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領解説を読む ・学習問題を子どもの立場で考える ・学習課題の設定や学習活動を吟味する ・課題と整合するまとめを構想する など ○評価問題の作成等を通じた、教師の学習指導力の向上 ○家庭学習向けの課題における、全国学力・学習状況調査等を参考にした「問い方」の工夫（答えを求めるだけでなく、考え方や理由を問う等）

市町村名 (建制順)	良好な結果 が出た教科	取組の事例
村山市	中・国A	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職や研究主任等が授業を参観・指導する際の視点の共有 <ul style="list-style-type: none"> ・困り感や疑問、感動から生まれる「子ども目線の課題」になっているか。 ・子どもたちの主体的な思考の量、時間が十分であったか。 ・学習内容や自己の変容を的確に自覚できる課題であったか。 ・次の学び（次時・家庭学習）の課題を生んだか。 ○中学校区で取り組む学力向上策及び各校で取り組むアクションプランの進行管理
舟形町	中・国A	<ul style="list-style-type: none"> ○授業づくりのポイントの共有 <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定とまとめの時間の確保 ・自分の言葉によるまとめ ・学習課題と整合する振り返り ○小中学校連携による「対話的なび」への取り組み ○大学教授等からの指導や、教育委員会の学校訪問による教員同士の学び合いを深める校内授業研究会の充実 ○舟形わかあゆ塾（大学生ボランティア、民間塾講師）や補充学習の活用による基礎基本の徹底
大蔵村	小・算A	<ul style="list-style-type: none"> ○小中連携の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校において、相互に授業参観を実施 ・全国学力・学習状況調査等の結果や子どもの実態等の共有 ○校内研修を通じた、教師が子どもの意見をつなげる役割の深化 ○子どもが学びたい、挑戦したいと思う課題の設定 ○振り返りや家庭学習、県作成資料活用の目的や意図の明確化 ○村営学習塾・未来塾の開設による、基礎学力の向上と活用力の強化及び学習習慣の形成
鮭川村	小・算A	<ul style="list-style-type: none"> ○「授業のスタンダード」（課題設定、自力解決、学び合い、適用問題、振り返り）を基本とした授業スタイルの確立による、学習指導力の向上 ○村全体での家庭学習強化週間（ノーメディア、セーブメディア）の実施による、計画的な家庭学習の推進 ○子どもが興味関心をもち、家庭でも探究したくなるような課題の設定 ○算数・数学における重点単元での取組 <ul style="list-style-type: none"> ・単元構成を工夫して、単元末の習熟の時間を十分に確保 ・習熟度別学習や発展的な問題、合科的な問題の提示
戸沢村	小・算A	<ul style="list-style-type: none"> ○校長・教頭・教務主任・研究主任を交えた村学力向上対策会議における、基礎基本の定着に向けた取組の共有 ○全国学力調査の問題や評価問題等を使った習熟の場面の設定 ○「家庭学習の手引き」を活用した、家庭学習に対する保護者の意識啓発 ○大学教授等や学社融合主事による継続的な指導・支援による授業改善

市町村名 (建制順)	良好な結果 が出た教科	取組の事例
南陽市	小・国A B 小・算A	<ul style="list-style-type: none"> ○市の方針と学校（中学校区）の独自性を生かした授業公開 ○市独自に任命している教育指導員による、研究授業等での指導・助言 ○市教育研究所において作成している評価問題等の積極的な活用 ○中学校区で家庭学習についての考え方や具体的な取組を共有
川西町	小・国B 中・国B	<ul style="list-style-type: none"> ○「授業改善のためのポイントリスト」の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・授業において「めあて、まとめ、振り返り」を確実に設定 ・教科の目標や系統性を意識した単元計画 ○全国学力・学習状況調査や NRT の結果の分析（つまずきの状況等）に基づいた単元計画の工夫 ○基礎基本を重点的に扱う場面の設定 ○「家庭学習の手引き」の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・学年の実態に応じた家庭学習の習慣化、子どもの主体的な取組の推進
小国町	小・国A B 小・算A B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校と家庭との連携による学習習慣づくり（「おぐにスタンダード」の設定とセーブメディアの取組） ○小中高一貫教育組織を活用した、系統性、連続性のある指導の充実 ○町学校教育研究所による主体的な授業改善体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・外部指導者招聘による継続的な指導（授業診断等） ・自分の学びの広がりや深まりを実感できる授業づくりに向けた共通実践項目の設定（振り返りにおいて重視するポイントの提示等） ○ICT を活用した「全員参加、アウトプット型授業」の定着 ○人的配置による個々のニーズに応じた指導・支援体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・学力充実支援員、国際・情報科特任講師、学習支援員、読書活動推進支援員
遊佐町	小・国A B	<ul style="list-style-type: none"> ○探究型学習を生かした授業改善のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・付きたい力の明確化 ・子どもが目的意識をもてる課題の設定 ・主体的・協働的な学びによる、広がりや高まりが実感できる授業づくり ・子どもの考えを生かした「まとめ・活用・振り返り」 ○家庭学習における予習的な課題の提示と、それを生かす授業づくり ○町広報を活用した、家庭生活の充実に向けた取組

- ① 本一覧は、平成 29 年度の全国学力調査において良好な結果だった市町村の中から、掲載について同意を得られた市町村の取組を建制順に記載しています。
- ② 取り上げた事例は、「アクションプランを受けた取組共有シート」に記載された内容及び市町村教育委員会への訪問の際に紹介のあったものです。

※良好な結果

全国学力調査において、市町村の平均正答率が全国平均正答率よりも 2.5 ポイント以上高い場合を「良好な結果」としている。

平成 28 年度 全国学力・学習状況調査において 良好な結果にある市町村の取組一覧

山形県教育庁義務教育課

市町村名 (建制順)	良好な結果 が出た教科	取 組 の 事 例
山形市	中・数学B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力調査の分析結果について外部有識者(山形大学教授等)から助言を受けている。 ○ 学校において「家庭学習の手引き」を作成配布し、保護者と連携した家庭学習の質的向上を図っている。 ○ 市の教育研究所だよりとして「算数の授業で使えるヒント集」を月2回発行し、各学校の授業改善等を支援している。 ○ 中学校教員の小学校授業研究会への参加 ○ 全国学力・学習状況調査の分析発信を通じた家庭との連携
中山町	中・国語A B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習活動のねらいを明確にした授業研究会の意図的計画的実施 <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーバイザーを招致しての探究型学習の具現化 ・新聞コラムの活用 ・学年を超えた発表会に向けた発表原稿作成等 ○ 算数・数学は、目指す子どもの姿を明確にした授業づくりを行いその中で、県作成資料についても効果的に活用する。 ○ 9年間の学びを見通した授業改善を図るためのカリキュラム・マネジメントについての指導・助言 ○ 安定した学校・学級づくりを基盤とした探究型学習の推進
西川町	小・国語A B 小・算数A B 中・国語A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中一貫教育で取り組む、探究型学習を中心に据えた授業改善 ○ コミュニティ・スクール導入による、学校・家庭・地域が連携した西川らしい教育の展開 ○ 学力に係る課題克服を指標とした、9年間の系統性のあるカリキュラムの作成とそれを活用した授業実践 ○ 予習的課題を意図的に仕組んだ単元計画等を取り入れるなど、自学する意欲を高めるカリキュラム・マネジメントへの取組 ○ マイスターを活かしたOJT充実による教職員集団づくりによる、教員の研修意識の高揚と資質向上
東根市	中・国語B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市内の算数授業リーダーによる授業研修会の実施とその成果の各校への波及 ○ 市の学力向上研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・各校教頭が、自校の学力向上への取組をプレゼンテーション ・管理職を集めて研修会を行うことで、校内での広がり取組の徹底を図る。 ○ QUとNRTの集計を活用した生活と学習の一体化を重視した集団づくりと授業改善 ○ 保護者と連携した家庭学習の内容の充実と生活リズムの確立

市町村名 (建制順)	良好な結果 が出た教科	取組の事例
尾花沢市	小・国語B 中・国語AB	<ul style="list-style-type: none"> ○ スパイス問題シートや単元末評価シート等の効果的な活用 ○ 探究型学習を推進するとともに、基礎基本の定着の重視 ○ 教科用語や教科の授業で使用する言葉の意味の正確な理解や定着を図る。 ○ 保護者や地域の方の学校教育への関心の高さを活かした、家庭生活・学習習慣等への一貫した関わりと支援の充実 ○ 外部研修会への参加や授業研究会への教科専門講師の招致などによる教師の授業力向上の積極的な推進
金山町	小・国語B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 習得：「算数・数学検定 in かねやま」の実施 + 各主検定試験の奨励 ○ 活用：「親子の学習支援事業」 外部講師による授業研究 + 事例研修会の充実 ※ 「読解力」の強化を目標とし、年3回の全員教育研修を実施 ○ 探究：小中一貫に配慮した総合的な学習の時間の計画 NRTの結果と全国学テの結果のクロス集計や、経年比較により当該学年の成長に目を向けた調査活用 ○ 年2回、町教委の指導担当者が、教諭と1対1の学習会を実施する。 個別の指導により、実態に合った実効性の高い指導・助言が可能
最上町	小・国語AB 小・算数AB	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校長会や生徒指導連絡協議会、町PTAと連携したメディア教育の推進（セブメディア）と家庭学習の充実 ○ 「学力向上推進委員会」を核とした授業づくりや町委嘱研究を通じた探究型学習の推進 ○ 学校支援地域本部を核にした学習支援や課題サポートの実施 ○ ICT環境の整備と主体的な学びを引き出すICTを活用した授業づくりの実践
真室川町	小・国語B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各授業研究会・校長会・教頭会等での継続的な指導・助言 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学校教育指導の指針」「授業づくりの5つの基本ポイント」に基づいた日々の授業充実 ・ 児童の考えを深める「学び合い」の徹底 ・ 「協働的な学習」とねらいに迫る教材研究の連携 ○ 「町広報」「家庭学習のすすめ」による家庭・地域との連携強化 ○ 成績分布図等を根拠資料とした家庭学習支援講座による算数・数学向上策の推進

市町村名 (建制順)	良好な結果 が出た教科	取組の事例
大蔵村	中・国語B	<ul style="list-style-type: none"> ○若手教師の確かな成長を確認できる校内研究会の実施 ○子ども同士のつながりを生かすという視点を取り入れた授業づくり ○N R Tの結果と全国学テの結果のクロス集計や、経年比較により当該学年の成長に目を向けた調査活用 ○「未来塾（村営塾）」による高学年の算数（基礎的知識）の強化 ○9年間で育てたい力を明確にし、教委・学校が同じ視点で取り組む授業改善
南陽市	中・国語A B	<ul style="list-style-type: none"> ○幼保小中一貫教育 <ul style="list-style-type: none"> ・学びの連続性を意識した系統的な指導の充実 ・教育研究所に幼保小中一貫教育委員会を設置し中学校区ごとに推進 ○家庭学習の在り方について、中学校区で系統性を持たせた指導 ○夏季休業中のサポート学習として、小学校教員が中学校で指導、中学生が小学校の学習会のお手伝い ○指導力の高い教員を他校の指導助言に活用する教育指導員制度 <ul style="list-style-type: none"> ・O J Tの推進、初任者等の若手教員の育成 ○県作成の各種シート、市独自の活用問題の計画的な活用
鶴岡市	小・国語A	<ul style="list-style-type: none"> ○「わかる・できる」が実感できる授業づくりの推進に向けた研修講座の実施 ○組織的な図書館活用教育の推進と、市立図書館との連携による読書活動充実のための支援 ○探究型学習推進協力校の取組の紹介と積極的な授業参観の推奨 ○小中連携による見通しをもった授業づくりの普及
三川町	小・国語A 小・算数A B 中・国語A	<ul style="list-style-type: none"> ○学習に対する町独自アンケートを実施による実態把握と共通理解 ○授業研における子どもの学びに向かう姿勢の丁寧な把握 ○単元目標・本時目標と授業の整合性・付けたい力の明確化に目を向けての指導助言 ○学習が実生活に生かされることを意識化させることによる学習への意欲・関心の高揚

① 本一覧は、平成28年度の全国学力調査において良好な結果だった市町村の中から、掲載について同意を得られた市町村の取組を建制順に記載しています。

② 取り上げた事例は、学力向上アクションプランに記載された内容、及びヒアリング訪問の中で紹介のあったものです。

※ 良好な結果：全国学力調査において全国平均正答率の3ポイント以上。